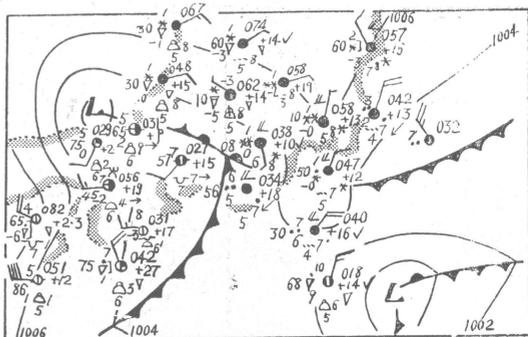
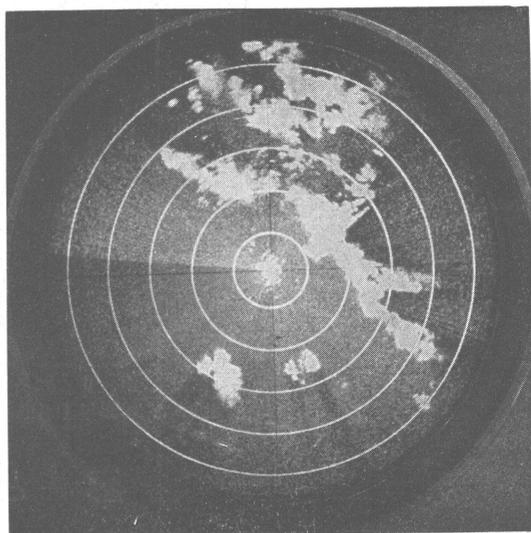
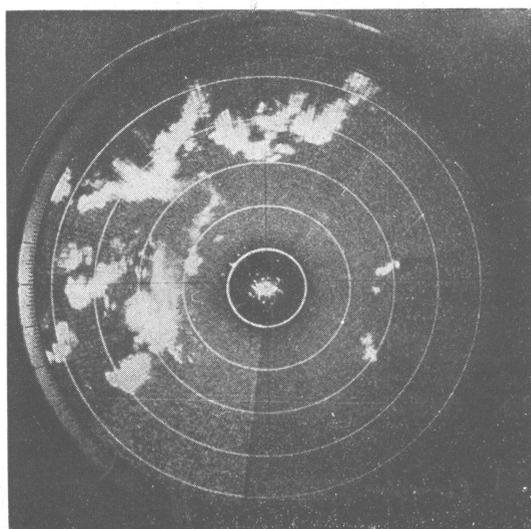


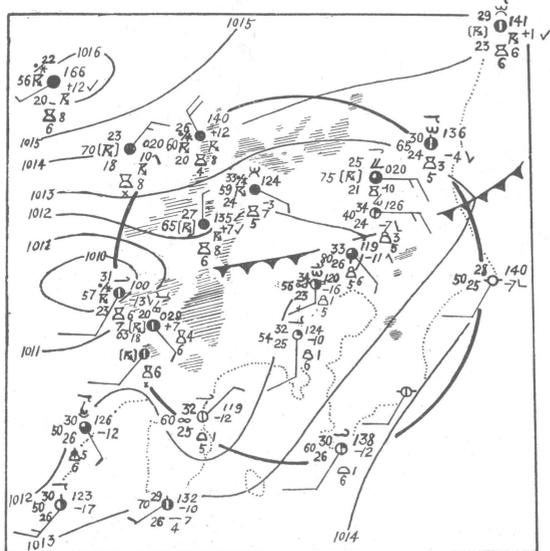
第1図 降雪のレーダー写真
1956年1月23日18時32分
(東京管区気象台レーダー係撮影)



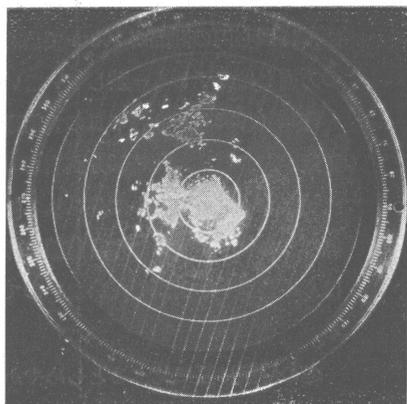
1956年1月23日18時の天気図



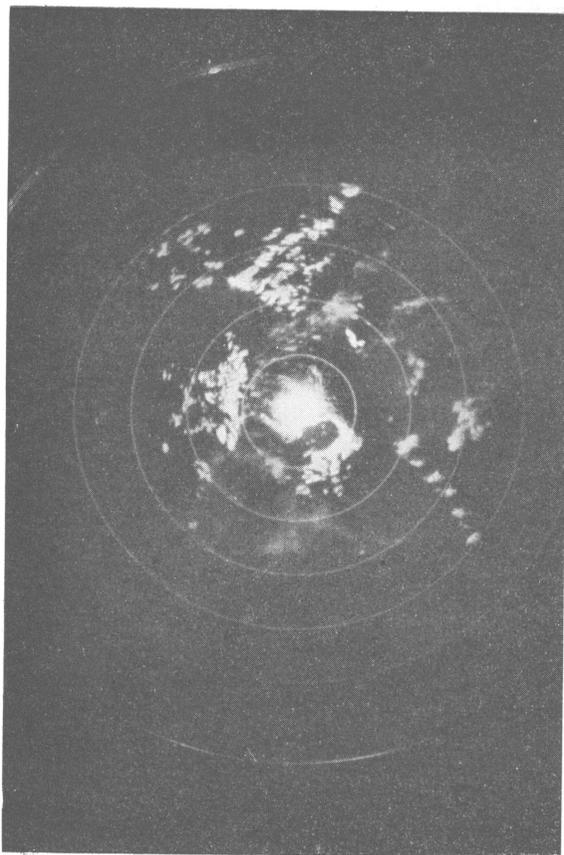
第3図 降雨のレーダー写真、間隔は20km、1955年8月3日 左は15時00分、右は15時38分
(気象研究所高層研究室 吉原氏撮影)



第4図 1955年8月13日15時の天気図
斜線はレーダーによる降雨域
太線の円は100kmの距離



第5図 地形によるエコー、間隔は40km
(東管レーダー係撮影)



第 6 図 冬 の 降 雨
 間隔 40km, 1956年 1 月 6 日 15時15分, (東管レーダー係撮影)

雪 と 雨 (レーダー写真説明)

レーダーが気象現業にも駆使されるようになり、降水現象があるたびに、面白い写真が撮られるようになった。去る 1 月 23 日東京一円に雪が降ったが、その日 18 時 32 分に東京のレーダーに写った降雪の分布が第 1 図に示すものである。つぎの図の降水に比べて色が淡く、しま模様は大略北東から南西に走っている。濃く見えている斑点は第 5 図からわかるように関東の山々である。距離は同心円の間隔が 20km である。この時の地上図は第 2 図に示す通りで、しまの方向は前線の方向とは必ずしも一致していないことが見られる。

昨年 (1955 年) 8 月 3 日の大雷雨日に、気象研究所で撮影されたものが、第 3 図である。15 時丁度が左の写真、15 時 38 分が右の写真である。同日 15 時における地上天気図は第 4 図で、図中の斜線はレーダー写真中に見られる降水域である。第 3 図の 2 枚の写真を比べると、北北西ないし北に見られるエコーは寒冷前線に伴って南東に向かって移動しているが、西ないし南西のエコーはほんのわずかしか動いていないので、天気図中の西部に見られる低気圧は、熱低気圧かと思われる。

冬の降雨は夏に比べるとしめやかだ。第 6 図は今年 1 月 6 日 15 時 15 分に写ったエコーである。この時には、弱い低気圧は東南東 1150km の位置にあり、そこから寒冷前線は西南西に延びている。これらの図には第 5 図に示すような地形によるエコーが出ているので、これを水滴によるエコーと識別することが大切である。第 6 図では、前線の走向とは違った向きに点々と並んだエコーのリズムが美しい。